

2026版 参加チームへの注意事項（学童）

大会要項及び本注意事項に記載されてある事項は、チーム全員に徹底すること。記載のない事項は、2026競技者必携のとおりとする。

◆競技運営に関する注意事項◆（競技者必携 P42～45）

1. ベンチは、組合せ番号の若い方を一塁側とする。ただし、1チームが2試合続けて行う場合はベンチの入れ替えは行わない。
2. ベンチに入れる人員は、競技者必携(P42)のとおりとする。熱中症対策としてベンチに入った保護者は、作戦指示等を行うことはできない。
3. 打順表(登録された選手全員を記入したもの)の提出は、その日の第1試合は開始予定時刻の30分前までに、第2試合以降は、前の試合の3回終了時に監督と主将が大会本部に6部提出し、登録原簿と照合ののち、球審立会いのもと攻守を決定する。
※ 打順表には登録された選手全員を記入すること。
※ 大会指定の打順表用紙を試合前に配布する。
4. シートノックは、原則として行わない。
5. 試合開始前の時間が許す範囲内において、サイドノック及び外野サブノックの実施を認める。その場合、ノッカーにボールを渡す選手や野手からの送球をノッカー付近で捕球する選手及び外野手からの送球を補助する選手(中継者)は、ヘルメットを着用すること。
6. 球場内ではトスバッティングのみ認める。
7. 次の試合の先発バッテリーは、攻守決定後、競技場内のブルペンを使用することができる。
※ 前試合終了から試合開始まで及び試合中のコーチのブルペン捕手を認める。ただし、試合中のコーチのブルペン捕手は岩手県大会でのみ認められている特例であることから東北大会以上では認められていない。(マスクを着用すること)
8. ベンチ内での電子機器類(携帯電話、パソコン等)の使用を禁止するが、電子スコア記録用として1台の使用を認める。指示用メガホンは、ベンチ内に限り1個の使用を認める。
9. 第2試合以降は、試合開始予定時刻前でも、前の試合が終了した後20分を目安に次の試合を開始する。
10. 試合開始予定時刻になっても会場に到着しないチームは、原則として棄権とみなす。
11. 雨天でも試合を行うことがあるので、必ず大会本部の指示を受けること。
12. 次のインニングに引き続き投げる投手のコーチスボックス外野角からポール方向のファウルテリトリーでの軽いキャッチボールを認める。また、ブルペンでのキャッチボールは2組4名以内を認める。ただし、競技場の条件(広さ)によっては認めないこともある。
13. 試合の挨拶は、試合前後の本塁整列の挨拶が全てである。チームの大会本部及び相手ベンチへの挨拶は不要である。

◆競技に関する連盟特別規則◆（競技者必携 P46～50）

1. 試合は6回戦であるが、暗黒、降雨などで6回までインニングが進まなくとも、5回を終了すれば試合は成立する。
2. 試合開始後1時間30分を経過した場合は、新しいインニングに入らない。
※ 1時間30分以内であっても、状況により試合を打ち切る場合がある。その場合は、その回の開始前に球審から両チームの監督にその旨を伝えることとする。

3. 投手の投球制限はチームの責任において遵守すること。(競技者必携P.48～49)
4. 投手の変化球を禁止する。投球が変化球かどうかは球審の判断による。変化球を投げた場合のペナルティは競技者必携(P50)のとおりとする。

◆試合中の禁止事項◆(競技者必携 P57～59)

1. 選手や審判員に対する全てのヤジを禁止する。(競技者必携 P11【ヤジ撲滅運動展開中】)
2. プレイを利用して相手選手を欺く行為(アンフェアプレイ)を禁止する。(例: 競技者必携 P58)
3. 試合が開始されたら、控え選手は、むやみにベンチから出てはならない。投手の準備投球にあわせて素振りをするのを禁止する。(認められる事項: 競技者必携P59(1)～(3))
4. 次打者席では、投手が投球姿勢に入ったら素振りをしてはならない。投手も必ず次打者席に入る。

◆試合のスピード化に関する事項◆(競技者必携 P59～62)

1. 試合のスピード化・マナーに関する確認事項(競技者必携 P15～16)を遵守し、試合のスピードアップを全員が励行すること。
2. 守備側タイムの際に監督またはコーチ等が投手のもとに行く場合、投手(内野手含む)に飲料水やタオル等を持参することができる。
3. 攻守交代時最後のボール保持者は、投手板にボールを置いてベンチに戻る。
4. 投手の12秒及び20秒ルールを遵守すること。(競技者必携 P9～10)
5. 打者のバッタースボックスルールを遵守すること。(アマチュア内規②)
6. 投手は、ロジンバッグを指先だけで使用し、丁寧に扱うこと。
7. 四死球の打者走者が保護具をはずすときには、本塁周辺で外し1塁へ向かうこと。(ただしインプレイ状態の場合は、プレイを優先させて構わない。)

◆競技者のマナーに関する事項◆(競技者必携 P63)

1. 捕手が投球を受けた時に意図的にボールをストライクに見せようとミットを動かす行為を禁止する。
2. 投手が投手板に触れて投球位置についたら、大きな声を発することなくプレイを見守ること。
3. ベンチ内の大人がいかなる状況であっても、選手を萎縮させるような言動を禁止する。
4. マナーを守った節度のある応援については、チームの代表者(監督)の責任において統制をお願いする。(競技者必携 P12【マナーを守った節度のある応援について】)

◆用具・装具に関する事項◆(競技者必携 P64～66)

1. 試合に出場する監督・コーチ・選手のユニフォーム、帽子は全員同色、同形、同意匠のものでなければならない。アンダーシャツ、ストッキングは全員同色のものでなければならない。
2. 試合に出場する捕手は、安全のためプロテクター、レガース、マスク(スロートガード付)、捕手用ヘルメット、ファウルカップを着用すること。

なお、準備投球及びブルペンで投球練習を捕球する選手は、捕手に求められる用具をすべて着用していない限り、立って捕球すること(出場中の内野手可)。

3. 一般用バットのうち、打球部にウレタン、スポンジ等の素材の弾性体を取り付けたバットの使用を禁止する。なお、一般用バットであっても、上記以外の木製・金属製・カーボン製・複合(金属/カーボン)バットについては、使用制限は行わない。
4. 捕手用マスクはSG基準合格品を着用すること。

◆その他◆

1. 試合中のグラウンド内のファウルボールは、チームで回収してボールパーソンに渡すこと。
2. 試合が終了したチームは、次の試合のグラウンド整備に協力すること。